

# JCMA 関西

Japan Construction Machinery and Construction Association, Kansai Branch Office

JCMA 関西 春号

巻頭言



官民意見交換会

行事報告



編集後記

114  
Spring  
2019

01 巻頭言「今後の関西の建設現場が面白い」

02 部会・委員会報告

02 広報部会

02 除雪技術委員会

04 建設業部会 リース・レンタル業部会

整備サービス業部会

05 建設機械施工技術検定試験（実地）

06 建設施工研修会

07 建設技術展 2018 近畿

09 ふれあい土木展 2018

10 官民意見交換会

11 関西支部行事報告

12 編集後記

## 今後の関西の建設現場が面白い

近畿技術事務所長 野村正之



平成31年は、平成最後の年であり、新しい時代の始まりです。今後の関西は、G20 サミット関連行事や防災・減災、国土強靱化や災害復旧の実施が見込まれ建設分野の見通しは堅調に推移するのではないかと思います。さらに、2020年のオリンピックや2025年万国博覧会の開催、統合型リゾート（IR）の誘致、北陸新幹線の大阪乗り入れやリニア新幹線の延伸など、どれを見ても関西を元気にしていく流れだと思いますし、インバウンド旅行客も大阪・京都を中心にして西日本へ広く循環するものになるものと予測されます。この流れに乗り遅れないように準備する事が事業拡大に向けた鍵になるのではないかと推測します。

このような状況の推移の中で、近畿地方整備局関連のプロジェクトも数多くありますが、大きなプロジェクトも進展に拍車がかかります。例えば、大阪湾岸道路西伸部事業です。事業費約5,000億円に及ぶ大事業であり、六甲アイランド地区を連続する橋梁群が、本州四国連絡橋以来の技術力を発揮する絶好の機会となります。また、淀川左岸線Ⅱ期事業は、堤防断面内に路線を構築する構造で大臣特認を受けての事業となり、地盤の改良や構造体の施工に新技術を活用できる場になっていくものと思われます。

この他にも各種プロジェクトが目白押しですが、最近の建設業界を巡る動きに注目しておくと、インフラ整備を支える建設業界の働き方改革が叫ばれており、それを支える一つの方策としてi-Construction（i-Con）の推進が重要になっていることです。i-Conは、平成28年にスタートし、平成29年は前進、平成30年は深化、平成31年は貫徹の年となります。建設現場の生産性2割向上を目指すフィールドは、土工、舗装工、浚渫工、

二次製品活用（コンクリート工）、橋梁、地盤改良など拡大を続ける一方で、工事全体で3次元データを流通利活用していく事業環境整備へとパラダイムシフトが進められていくものと予測されます。こうなると、発注者も受注者も建設事業で発生しているビッグデータを賢く加工し使い供給し、自分の所属するセクターの価値を高めるデータユーザーに変質していく可能性があるのではないかと思います。

ここで、時代の潮流に乗り遅れないこと、時代の変化に対応していくことは大切なことですが、その際に技術を使って生業を得ているものとしては当然技術を使って解決するものですから、忘れてはならないことがあると思います。

技術の開発や利活用を考える時、多くの評論家が喧伝するダーウインの海（大部分の技術がユーザーの理解力の無さと活用現場がないため無駄になってしまう）という命題は少し考える余地があるのではないかと思います。乗り越えられなかったというのは結果論であり、投入プロセスと資金の錯誤によるものです。蓋し、新技術を投入する際には、多方面から技術を磨き適時に資源投入をしてほしいと思います。近畿技術事務所にも多くの新技術が登録されてきますが、自社が保有する技術に対して明確なビッグピクチャー（展望）が感じられるものには思わず応援したいと思えるものです。

これから面白い時期に入る関西の建設現場でご活躍される皆様方には、各種プロジェクトの動向に注目されるときにi-Conの取組や新技術の導入に主体的にチャレンジし、その成果を広く共有していただけることを期待しています。

## 1. 合同見学会

- 開催日：平成 30 年 9 月 21 日（金）
- 見学先：日立造船（株）堺工場
- 出席者：河村謙輔広報部会長以下 24 名
- 概要

まず最初に高田徹管理部長に日立造船（株）の歴史及び堺工場内のレイアウト、製造している製品のご説明をいただいた。歴史をひもとくと、もともとは 1881（明治 14）年に英国人の E.H. ハンター氏が大阪鉄工所として創業し、その後第二次世界大戦の頃に日立製作所グループに入り、戦後離脱したものの、名称はそのままにしているとのことであった。2002（平成 14）年には創業以来の中心事業である造船事業を分離し、その後はシールドマシンや焼却炉、工場設備等を製造する機械・プラントメーカーになった。

今回この堺工場において、大口径のシールドマシンがちょうど完成していた。なかなか一般の人の目には触れない機械であるが、地下インフラを建設するに当たり非常に重要な機械である。実物を見ると大きさに圧倒され、またこの機械が地面の下を掘り抜いていく所を想像すると、力強さを感じた次第である。

続いて、今後関西地区でも必須となるであろう陸上設置型フラップゲート式可動防潮堤「neo RiSe®」の実



写真-1  
可動防潮堤

物を見学した。近年は集中豪雨等による水害が多発しているが、特に大阪市内でも地下街などを中心に水害対策は喫緊の問題である。しかし土嚢袋による止水では手間も時間もかかり、また電動で動くような止水壁設備も維持管理で非常に高額になりかねない。それに対し、流入してくる水の力を利用してフラップゲート（止水壁）を立ち上げ止水するこの仕組みは非常にシンプルで作動信頼性も高いのではないかと感じた。

機械・プラントなど重厚長大系と言われる産業は景気の波も受けやすく対応に苦勞が多いと思う。しかし社会インフラを作るという使命感を持つことができる産業であろう。

最後に、今回の見学会に当たり企画、ご対応いただいた日立造船（株）シールド営業部の谷口様、佐野川谷様、そして堺工場の皆様方に厚く御礼申し上げます。

# 除雪技術委員会

委員長 小林 正樹

## 1. はじめに

福井県除雪技術委員会は、国・県・市・町の除雪対策本部と連携し、雪害対策期間における除雪機械車輛の安全かつ円滑な運用と、除雪作業、管理者の技術の向上を目的として活動している。

これまで、関係官庁の担当者として一般除雪受託者そして当委員会が一体となって雪害対策に取り組めるように毎年「除雪機械技術講習会」を開催してきた。

しかし、昨年度の大雪害により今年度より国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所、福井県土木部道路保全課、福井市建設部道路課、一般社団法人福井県建設業協会によって結成された、「福井県内における除雪力向上に資する連絡会」が主催することとなり、共催の立場でセミナーをサポートしていくこととなった。主催が管理者主体になったことで、今年は参

加者も大幅に増え、試乗機数も 8 台とこれまでにない大規模な体制で開催された。

## 2. 平成 30 年度除雪機械技術講習会

日 時：平成 30 年 11 月 19 日（月）

場 所：今庄 365 スキー場

参加者数：163 名（受講者 128 名 関係者 35 名）

受 講 者：官公庁及び民間除雪受託者のオペレータと管理者

開催内容：

### 1) 除排雪作業に伴う労働災害の防止について

武生労働基準監督署署長の兄玉秀一様より、パワーポイントなどを用いて、お話しいただいた。一般の労働災害も、福井は増加傾向にあり、昨年度は除雪作業時にも過労による死者が出るなどしたため、熱の入った内容であった。

# 除雪技術委員会

## 2) 国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所の除雪作業について

福井河川国道事務所道路管理課長の斉藤哲也様より、昨年度は北陸自動車道通行止の影響で国道8号において数日間身動きがとれなくなるなどの災害があり、再発防止の課題と対策などについて詳細の説明があった。オペレータの方々にも協力してもらうことが多くあるとのことであった。

## 3) メンテナンス実技指導訓練

除雪ドーザ・除雪トラック・除雪ロータリ・散布車・普通バケットのホイールローダの実機を用い、当委員会メンバーの整備担当者による運用前点検、長期休車後の注意点、機械の品質や性能を損なわないための管理保守点検について指導解説した。特に今年は人数が多かったため、班ごとの説明時間を長くとするよう工夫し修理に関して、専門業者への依頼の必要性を説明し、新型車輛の使用法、メンテナンス、またこれまでの事故事例や消耗品交換の際の注意運用方法について、重点的に解説した。

## 4) 実技施工訓練

除雪ドーザ・除雪トラック・除雪ロータリ・グレーダのそれぞれ複座式のものを用意し、ベテラン運転者を講師に招いて、実技施工訓練を行った。

普通バケットのホイールローダに関しては、希望者多数のため単座式と複座式の両方を用意した。

これまでは、早く終えた参加者は第二希望、第三希望の機種を体験してもらえることが多かったが、今年は参加者数が多かったため、多くても二機種程度の体験となった。時間が足りなかったなどのアンケート回答もあり、来年度以降の課題となったと思われる。アンケートでは、仕様バリエーションの追加や、走行だけでなく作業の練習を希望する回答もあり、参加者がこの講習で、実技指導をいかに重要視しているか、分かるものであった。待ち時間やCPDS 付与の希望も、例年のようにあったが、体制変更初年度としては大きなトラブルもなく、順調に終わることができた。来年度以降の運営については、今後主催となる「福井県内における除雪力向上に資する連絡会」と連携をとりながら、要望に応じていく方向で検討したい。



写真-1  
座学風景

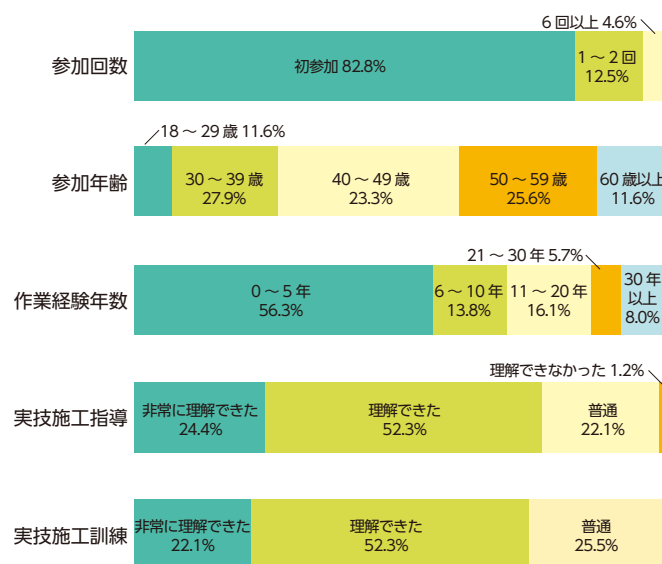


写真-2 実技施工訓練

## 3. アンケート調査結果について

■参加者数： 128名 ■回答数： 85名

■回答率： 66.4%



【参加回数】初参加が82.8%、2回目を合計すると95.4%となる。昨年度の豪雪の影響や主催が連絡会へ変わったことが影響したと考えられる。

【参加年齢】次世代になり得る10代～20代は少ないが、年代の偏りが少なく、事業の継続性はある程度保たれている状況と思われる。

【作業経験年数】経験年数の浅い方(10年未満が70.1%)にとって、この講習は特に有意義であると思われるが、ベテランの参加者の中には、実技講習の内容に不満のある方もいた様子。ベテランにも、満足してもらえる内容の充実が必要である。

【実技施工指導】「理解できた」「非常に理解できた」を合わせて76.7%。昨年は80%台だったので、理解度が下がったもととれるが、今回は82.8%が講習会初参加であり、56.3%が除雪経験年数5年以下であることを考えると、やむを得ない。

【実技施工訓練】「理解できなかった」方はいなかった。実際の運転は、何よりも実感を持って理解、納得できるものであると思われる。

## 1. 平成 30 年度第 2 回合同見学会

- 開催日：平成 30 年 12 月 5 日（水）
- 見学先：見学先：安威川ダム建設工事 大林組 JV
- 出席者：出席者：22 名（建設業部会 14 名、リース・レンタル業部会 8 名）
- 内 容

この度は、大阪府にて建設中の安威川ダム建設事業の現場を、大林組 JV 様のご厚意により見学させていただくことになった。

昭和 42 年 7 月北摂豪雨を契機に 100 年に一度の大雨に対応できるよう治水対策が立案され、安威川下流域の河川改修、道路整備等順次進められ、平成 26 年度よりダム本体工事に着手された。

現場に到着後、現場事務所にて大林組 JV 所長・羽田様より本事業の概要と現在までの進捗について説明いただいた。

その後、ダム建設状況が見渡せる場所まで移動し、建設の状況をご説明いただいた。ダム建設ゆえ、移動は全てバス移動である。

現在、約 170 名の作業員の方が建設に従事されており、作業の工程により最大 230 名ほどが作業に従事されることであった。

本事業では ICT 工事の実証実験が行われており、事業の説明と実際の操作についても見学させていただいた。本事業は大林組様が NEC、KDDI と 3 社で次世代通信シ



写真-2 現場説明

ステム「5 G」を活用して建設機械を遠隔操作するもので、作業ヤードのバックホウとクローラダンプにカメラ（各建機に前方に 3 台、全天球カメラ 1 台）を搭載し、計 8 台のカメラ映像と音声情報を 5 G で遠方操作室まで送ってオペレータが遠隔作業を行う。オペレータの状況と建設機械が稼働している現場を見学させていただいたが、約 1km 離れた場所での操作とは思えないスムーズな動作に驚いた。

また、情報交流センターに展示されているダム事業地周辺の立体模型（縮尺 1/1000）や安威川ダム資料館、ダム工事現場を一望できる展望広場には、ダムフォトフレームが設置された「オリジナルダムカードが作れます」のコーナーもあり、魅力ある現場づくりに努められていることは素晴らしいと思った。

今回、現場見学をさせていただき、ご説明等いただき改めてダム建設現場の大変さを実感でき、有意義な見学会になった。

最後に、今回の開催にあたり、現場説明、現地案内をお世話いただきました羽田所長以下大林組 JV の皆様に心より御礼申し上げます。



写真-1 安威川ダム工事現場



写真-3 ダムフォトフレーム

# 1級・2級建設機械施工技術検定試験（実地）実施

## 平成30年度実地試験

平成30年度1・2級建設機械施工技術検定試験（実地試験）は、全国13会場で行われました。関西地区は8月21日（火）～8月26日（日）まで、小野市のキャタピラー教習所（株）と明石市のコベルコ教習所（株）の両試験場で実施しました。

今年度の実地試験の実受検者数は、1級と2級の合計で939名となり昨年（1,075名）に比べ13%減少しています。級別の内訳では、2級の受検者数は3%の減少ですが、1級の受検者数が昨年の442名から327名で26%の大幅な減少となりました。これは、平成30年度の1級学科試験の合格率が約10%低下した影響によるものです。

受検種目別の内訳では、1級の受検者の約40%は、

第2種（バックホウ）と第4種（ロードローラ）の受検となっています。

2級の受検者の約85%が第2種（バックホウ）で、第1種（ブルドーザ）が6%、第4種（ロードローラ）が4%、第6種（アースオーガ）が3%となりました。

例年、受検者数が少ない第3種（モータ・グレーダ）は1級と2級を合わせても2名となっています。また、第5種（アスファルト・フィニッシャ）についても、1級と2級合わせて11名となりました。



実地試験の全体説明風景

表-1 1級の受検状況

	種別						
	1	2	3	4	5	6	計
受検予定者	40	136	1	127	6	17	327
実受検者	40	136	1	127	6	17	327
受検率(%)	100	100	100	100	100	100	100

表-2 2級の受検状況

	種別						
	1	2	3	4	5	6	計
受検予定者	37	528	1	28	5	19	618
実受検者	36	524	1	27	5	19	612
受検率(%)	97	99	100	96	100	100	99



第1種 ブルドーザ



第2種 バックホウ



第3種 モータ・グレーダ



第4種 ロードローラ



第5種 アスファルト・フィニッシャ



第6種 アースオーガ

# 平成 30 年度建設施工研修会開催

## 第1部 事例発表

## 第2部 第51回建設施工映画会

建設施工研修会は、平成30年10月17日（水）、建設交流館8階グリーンホールにおいて開催しました。参加者は96名でした。

**第1部** 事例発表では、国土交通省 近畿地方整備局河川部 水災害予報センター水災害対策専門官 林 貴宏氏より「水災害について」と題して、平成30年7月豪雨の概要や平成30年9月台風21号による概要など近年の水害の特徴などについて講演がありました。特に、雨の降り方が変化し時間雨量50mmを上回る大雨の発生件数がこの30年間で約1.3倍に増加するなど、気候変動の影響により、水害の更なる頻発・

激甚化の懸念があるとの報告でした。参加者によるアンケートでは「水災害について、環境の変化に伴い、ハード面、ソフト面ともに今後いろいろな課題に取り組んでいく必要性を感じた」「避難訓練に参加することの意義の大切さ」「過去事例の詳細なデータなど普段知りえない情報を知りうることができた」などの回答が寄せられました。

**第2部** 建設施工映画会では、外環道本線とランプ4本が複雑に入り組んだ工事の「開削工法」「泥土圧式シールド工法」「ハーモニカ工法+アンダーピニング工法」を組み合わせた施工の紹介など、建設施工に係る10本の映画を上映しました。

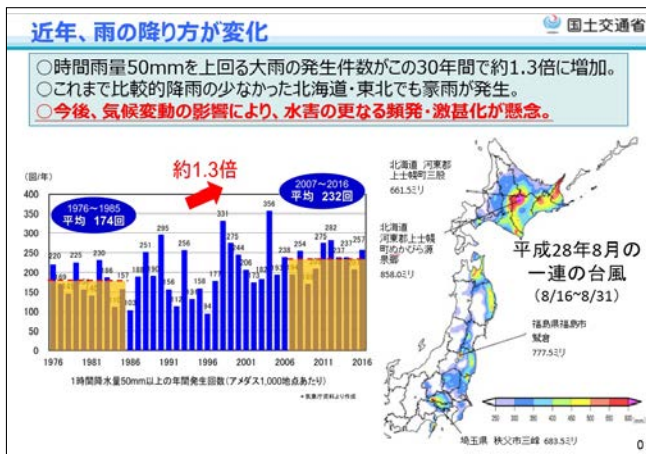


図-1 大雨の発生件数変化

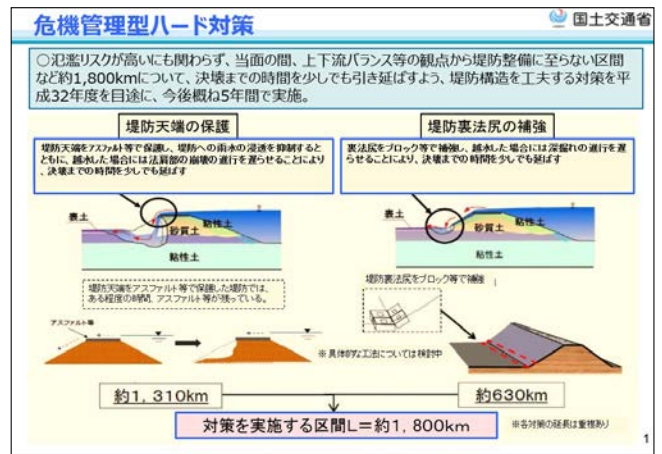


図-2 堤防構造対策

表-1 第2部 第51回建設施工映画会上映作品一覧

No	上映作品	映像提供
1	外環自動車道田尻工事の概要	大成建設(株)
2	斜材保護管点検ロボット「コロコロチェッカー」	西松建設(株)
3	自動追従台車「かもーん」	(株) レンタルのニッケン
4	荒瀬ダム撤去 日本初の本格的コンクリートダム撤去工事	(株) フジタ
5	不整地運搬車(クローラーキャリア)の自動走行技術	(株) 熊谷組
6	沖縄西海岸道路 牧港高架橋 鋼桁架設(施工記録)	三井住友建設(株)
7	AR-Eye 埋設ビュー	清水建設(株)
8	i-Constructionにおける3次元データ作成の流れ	福井コンピュータ(株)
9	VERSATILE BOX 工法 都市部の矩形断面トンネルを非開削工法で施工	鹿島建設(株)
10	未来へつなく武蔵野の森総合 スポーツプラザメインアリーナ棟 建設記録	(株) 竹中工務店



## 建設技術展 2018 近畿 開催

「ええもん（技術）使こて、ええモン創ろ！」

2018.10.24-25

### 2日間で15,000人超えの来場者

「ええもん（技術）使こて、ええモン創ろ？」をテーマに「建設技術展 2018 近畿」（主催：日刊建設工業新聞社、（一社）近畿建設協会）が、10月24日（水）、25日（木）の両日、大阪市中央区のマイドームおおさかで開催されました。建設技術展は、産・学・官の技術交流の場として開催されており、民間企業が開発した新技術・新工法など、過去最多となる179の企業・団体による技術展示が行われました。また、大阪府北部を襲った地震や大型の台風の襲来により防災への意識が高まる中、関西ライフライン研究会による地震防災フォーラム「南海トラフ巨大地震に備えて-初動対応と応急復旧の仕組みづくり-」が開催され、「大規模災害に備える」と題して基調講演が行われました。

開会式では、主催者を代表して（一社）近畿建設協会・霜上民生理事長が「建設業界が人材育成や技術開発に投資し生産性を高め魅力ある産業としていくことが大切である。この技術展がビジネスチャンスの場になることを期待しています」と挨拶されました。

来賓挨拶では、黒川純一良近畿地方整備局長が公

共工事においても新技術をしっかり活用していく。この建設技術展で最新の技術を学んでいきたい」と述べられました。



地震防災フォーラムでの基調講演

会場内の技術展示コーナーでは、防災、環境、コスト縮減、安全・安心、施工、維持・更新、IT・ICT、団体、学校の9分野に分かれ、約500件の最新技術などが紹介されました。



維持・更新コーナー展示

その中で、技術展示表彰が行われ結果は下記のとおりです。

#### 〈技術展示表彰〉

賞名	出展者名	技術名
注目技術賞	協同組合Masters 地盤環境事業部会 土留部材引抜同時充填 工法研究会	土留部材引抜同時充填 工法
	(株)大特	仮設ステージ 大特スト ラクチャー
	(株)パスコ	航空レーザ深淺測量 (ALB)
審査委員 特別賞	(株)リンク	支柱路面境界部調査シ ステム キズミー1
	Made in 新潟 新技術普 及・活用制度	Made in 新潟 新技術普 及・活用制度
ベスト ブース賞	JFEグループ	

### 学生のためのキャリア支援

建設技術展では「学生のためのキャリア支援」として、来場した学生のため、官公庁や道路会社、鉄道会社、総合建設業、橋梁メーカーの担当者から直接それぞれの仕事内容について説明が行われました。

## 橋梁模型製作コンテスト

..... 入賞一覧 .....

### 会場製作部門

賞名	出場者名	チーム名
最優秀賞	奈良県立吉野高等学校	よしのシビルクラブ
優秀賞	高知県立高知工業高等学校定時制	team” T”
	中央復建コンサルタンツ (株)	Team-CFK
審査委員特別賞	大日本コンサルタント (株)	NE-sui
	(株) 奥村組	TEAM OKUMURA A
	阪神高速道路 (株) 本社	阪神高速 XI Bridge

### 学生部門

賞名	学校名	チーム名
最優秀賞	奈良県立吉野高等学校	よしの C
	兵庫県立東播工業高等学校	東播 A
優秀賞	奈良県立吉野高等学校	よしの B
審査委員特別賞	高知県立高知工業高等学校定時制	「night Bridge」
	神戸市立科学技術高等学校	神戸科技術工研究会
	大阪市立都島工業高等学校	チーム Do
	大阪府立布施工科大学高等学校	布施工 7
人気作品賞	兵庫県立東播工業高等学校	東播 A



橋梁模型製作コンテストの会場製作風景

建設技術展恒例の橋梁模型製作コンテストは、会場で支間長 1m の模型を 2 時間の持ち時間で仕上げる会場製作部門と、事前に支間長 60cm の模型を製作する学生部門が行われました。完成後の審査にあたっては、デザイン性や経済性、技術度などを評価。強度確認のため、会場製作部門は 25kg、学生部門は 30kg の重りを 1 分間つるす載荷試験が行われました。審査の結果、橋梁模型製作コンテストの会場製作部門に参加した 15 チームの内、奈良県立吉野高校「よしのシビルクラブ」が最優秀賞を獲得。学生部門も 38 チームの参加で、奈良県立吉野高校「よしの C」、兵庫県立東播工業高校「東播 A」が最優秀賞に輝きました。

## i-Construction の普及促進

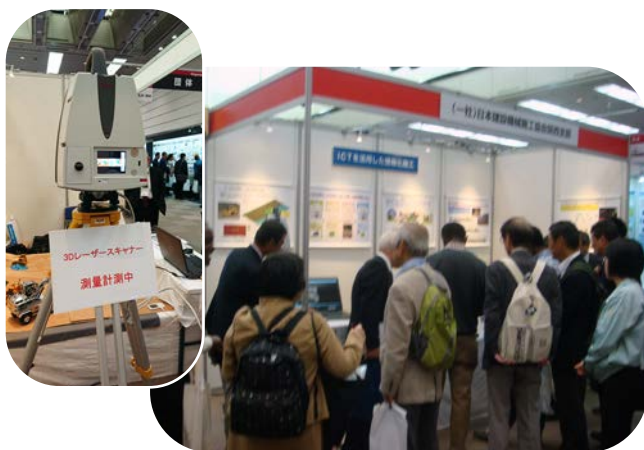
関西支部のブースでは、生産性の向上や魅力ある建設現場の実現を目指す i-Construction の普及促進のため、ICT 活用工事で必要な 3 次元測量の実機計測体験コーナーを設置しました。特に今回の展示コーナーでは、3 次元起工測量や出来形管理等の出来形管理計測に使用できる精度の高い 3 D レーザスキャナを設置し、関西支部のブースを施工ヤードと想定して、実際に測量された関西支部ブース付近の点群データと着色された画像データを作成しての PR を行いました。短時間で作成される画像データに見学者からは感嘆の声が上がっていました。

## 新技術活用促進セミナー

25 日午前、近畿地方整備局が新技術活用促進セミナー「現場で使った新技術 15 選」を昨年に引き続き開催し、施工業者が実際に活用した有用な新技術の現場での活用効果等について報告されました。また、発表会場横には発表技術に関する説明会場が併設され、参加者との意見交換等が行われました。



新技術の発表会場



関西支部展示ブース

# 「ふれあい土木展 2018」



近畿地方整備局近畿技術事務所が地域の子どもたちに土木技術の魅力を感じるきっかけとなり理解を深めるためのイベントとして「ふれあい土木展 2018」が、平成 30 年 11 月 9 日（金）、10 日（土）の 2 日間、枚方市の近畿技術事務所構内において盛大に開催されました。今年度も会場内に建設現場で活躍する建設機械や、土木技術が暮らしを支える仕組みについて会場内で実演紹介がありました。

初日は少し天気が良くなかったものの、近隣の小学校の 340 名の児童たちを含む 716 名の見学者がありました。小学校の児童は、近畿地方整備局が保有する災害対策用機械などの説明を受けていました。

2 日目は天候にも恵まれ、近隣地域の小さな子どもを連れてご家族などが多数来場して、入場者も 1,260 名のほり、2 日間で延べ 1,976 名となりました。



災害対策機械の展示コーナーで説明を受ける小学生



災害対策用ヘリコプター（きんき号）

## 関西支部ブース

関西支部では、昨年に引き続き建設機械の展示コーナーと情報化施工の普及・促進の体験コーナーを設置しました。ミニショベルのコーナーでは、実際に運転席に座る乗車体験や、記念撮影をすることができるため、大勢の子どもたちや親子連れで賑わっていました。



好評のため、今年も展示された、災害現場等での活躍が期待される双腕作業機「アスタコ」です。知名度が高く、「アスタコ」を

目当てに来場された方もいらっしゃるほどの人気でした。

情報化施工の普及・促進の展示コーナーでは、「ドローン」による撮影やシミュレータによる操作体験コーナーを



ドローン等の展示

設置しました。撮影した写真は、皆さんにプレゼント。ふれあい土木展の記念にお持ち帰りいただきました。



ドローンによる記念撮影

# 福井地区意見交換会を開催

## 福井地区意見交換会を開催

平成30年12月10日（月）、近畿地方整備局福井河川国道事務所と（一社）日本建設機械施工協会関西支部で福井河川国道事務所管内における土木機械設備の点検整備業務に関して意見交換会を開催しました。

出席者は、福井河川国道事務所・嶋田博文所長以下14名、協会側からは松本克英関西支部事務局長以下24名の出席がありました。関西支部からは、福井河川国道事務所管内で土木機械設備関係の維持管理を行っている会員各社が出席しました。

### 議事次第

1. これまでの経緯
  - 意見交換会の経緯及び成果
2. 意見交換
  - 点検整備業務履行における努力・工夫・課題等
  - 点検整備業務履行における意見・要望等

福井河川国道事務所管内の、水門、堰、排水ポンプ設備や管内全域に亘って数多く設置されている融雪設備等の維持管理における課題について意見交換が行われました。

最初に、福井河川国道事務所長から日頃の維持管理対応へのお礼を述べられた後、事務所維持管理担当者から昨年度の意見交換会後の対応状況などの報告がありました。協会側からは、福井河川国道事務所管内で実際の点検・修繕担当者から以下の項目等について報告し意見交換を行いました。

#### 業務履行における努力・工夫・課題等について

- ・夜間等における緊急出動体制を確保するため、社員の居住地を踏まえ全施設を対象としたチームを編成し年間運用を実施
- ・社員がタブレットを保有し、故障対応の状況等を共有、TV会議を日常的に運用
- ・故障時の復旧を早期にするため、盤内のリレー、シーケンサ等の予備品を独自に確保

#### 点検整備業務の履行に関する意見・要望等について

- ・融雪設備の保守においては、各基地に従事する雪寒業者と、緊急時の対応や設備毎に毎年発生する不具合等の対応策も含め情報共有ができればよい

## 近畿地方整備局との意見交換会

平成30年12月20日（木）、プリムローズ大阪において、近畿地方整備局と（一社）日本建設機械施工協会関西支部及び（一社）河川ポンプ施設技術協会との合同で土木機械設備に関する要望事項について意見交換会を開催しました。出席者は、近畿地方整備局が達家養浩企画部機械施工管理官以下4名、協会側からは松本克英関西支部事務局長以下15名、河川ポンプ施設技術協会からは相原正之企画部長以下13名の出席がありました。



写真-1 意見交換会の様子

今年度の意見交換会は以下のテーマで行いました。働き方改革が進められている中、週休2日制についても意見交換が行われました。

#### 余裕のある工期設定を要望

土木機械設備工事においては土木本体工事や建築工事等、他工事の影響を受けやすいため、もっと余裕を持った工期設定をしてほしいとの要望が挙げられました。特に、水門工事やポンプ設備工事においては、非出水期での工事規制等により中々踏み出せない状況があるとの意見が出されました。

#### 技術者の確保

担い手確保・育成に関しては、各社とも若手技術者の確保が大きな課題となっているとの報告がありました。一方、工事発注が少なくなる中、「ポンプ設備等では機械器具設置業となることから、監理技術者（機械）の取得必要期間が長いと、経験のある技術者が確保できなくなっている」「1級ポンプ施設管理技術者に合格すれば、取得期間短縮（緩和条件）を検討してほしい」との要望も挙げられました。

# 支部行事報告

## 支部行事報告（9月）

### ■「建設技術展 2018 近畿」幹事会

月 日：9月13日（木）

場 所：大阪マーチャングाइズ・マートビル

出席者：松本克英事務局長

- 議 題：①「建設技術展 2018 近畿」のプログラム及び全体概要について  
② 開会式出席依頼について  
③ 注目技術省の審査員について  
④ 当日の動員体制について  
⑤ 技術交流会について  
⑥ その他

### ■第3回広報部会

月 日：9月21日（金）

場 所：関西支部 会議室

出席者：河村謙輔広報部会長以下5名

- 議 題：① 行事予定  
② 「JCMA 関西」について

### ■広報部会 工場見学会

月 日：9月21日（金）

見学先：日立造船（株）堺工場

参加者：河村謙輔広報部会長以下24名

### ■建設用電気設備特別専門委員会（第445回）

日 時：9月26日（水）

場 所：日本銀行京都支店

- 議 題：① 前回議事録確認  
② 見学会：日本銀行京都支店

## 支部行事報告（10月）

### ■平成30年度 施工技術報告会 幹事会

月 日：10月16日（火）

場 所：関西支部 会議室

出席者：松本克英事務局長以下6名

- 議 題：① 前回議事録確認  
② 平成30年度施工技術報告会予算（案）  
③ 発表論文の応募について  
④ 講演原稿作成依頼について  
⑤ 平成30年度講演開催会告文について  
⑥ 「まえがき」について

### ■建設施工研修会

月 日：10月17日（水）

場 所：建設交流館 グリーンホール

参加者：96名

内 容：第1部 事例発表「水災害について」

講 師：近畿地方整備局 河川部 水災害予報センター  
水災害対策専門官 林 貴宏 氏  
第2部 第51回建設施工映画会  
「外環自動車道田尻工事の概要」など10編

### ■広報部会

月 日：10月17日（水）

場 所：建設交流館 グリーンホール控室

出席者：河村謙輔広報部会委員以下5名

議 題：「JCMA 関西」について

### ■建設用電気設備特別専門委員会（第446回）

月 日：10月24日（水）

場 所：中央電気倶楽部 会議室

- 議 題：①「JEM-TR121 建設工事用電機設備機器点検保守のチェックリスト」見直し検討  
② その他

### ■「建設技術展 2018 近畿」出展

月 日：10月24日（水）、10月25日（木）

場 所：マイドームおおさか

入場者：15,829人

テーマ：「情報化施工の普及促進」

## 支部行事報告（11月）

### ■「ふれあい土木展 2018」出展

月 日：11月9日（金）、11月10日（土）

場 所：近畿技術事務所

入場者：1,976人

- テーマ：①「情報化施工の普及促進」  
② 2本腕のロボット建設機械「アスタコ」及びミニショベルの展示

### ■除雪機械運転技術講習会

月 日：11月19日（月）

場 所：今庄 365 スキー場

参加者：163名

- 内 容：① 除排雪作業に伴う労働災害の防止について  
② 国土交通省近畿地方整備局福井河川国道事務所の除雪作業について  
③ メンテナンス実技指導訓練  
④ 実技施工訓練

### ■企画部会

月 日：11月19日（月）

場 所：関西支部 会議室

出席者：溝田 寿企画部会長以下9名

- 議 題：① 平成30年度上半期事業報告（案）・経理概況報告（案）について  
② 会員の推移  
③ 今後の予定

### ■運営委員会

月 日：11月26日（月）

場 所：大阪キャッスルホテル 会議室

出席者：深川良一支部長以下23名

- 議 題：① 平成30年度上半期事業報告  
② 平成30年度上半期経理概況報告  
③ その他

## 支部行事報告（12月）

### ■建設業部会、リース・レンタル業部会、整備サービス業部会 合同見学会

月 日：12月5日（水）

場 所：安威川ダム建設工事現場

参加者：的場一彦建設業部会長、山本祥平リース・レンタル業部会長以下22名

## ■福井河川国道事務所との意見交換会

月 日：12月10日（月）

場 所：近畿建設協会福井支所 会議室

参加者：松本克英事務局長以下 38 名

内 容：① 意見交換会の経緯および成果  
② 受注者の点検整備業務履行における努力・工夫・課題等  
③ 点検整備業務の履行における意見・要望等

## ■建設用電気設備特別専門委員会（第 447 回）

月 日：12月10日（月）

場 所：中央電気倶楽部 会議室

議 題：①「JEM-TR121 建設工事用電機設備機器点検保守のチェックリスト」見直し検討  
② その他

## ■平成 30 年度施工技術報告会第3回幹事会

月 日：12月18日（火）

場 所：関西支部 会議室

出席者：松本克英事務局長以下 11 名

議 題：① 発表原稿  
② 査読担当  
③ 原稿執筆要領  
④ 作成見本  
⑤ 「会告文」について  
⑥ 「まえがき」について  
⑦ 当日役割分担  
⑧ 今後のスケジュール

## ■近畿地方整備局との意見交換会

月 日：12月20日（木）

場 所：プリムローズ大阪

参加者：松本克英事務局長以下 32 名

内 容：土木機械設備に関する要望事項について

## 編 集 後 記

早くも平成 30 年の年度末を迎えました。私も年を取ったせいか一年が早く感じます。

これから新年度を迎え、皆様は新生活、昇進、転勤など忙しい時期を迎えると思いますが、まずは体調管理を徹底して素晴らしい新年度を迎えてください。

体調管理といえば、今冬はインフルエンザが大流行しました。私の家族も 2 人が犠牲になり、私の看病、愛情(?)を注いだ結果、快調に向かいました。娘の通う学校はインフルエンザの猛威により学級閉鎖が相次ぎ、各家庭の親が子供のお守りで大変だったと聞いています。

インフルエンザに罹患した家族 2 人は【日頃から体調管理を行っているから大丈夫】と豪語していましたが結果、記載の通りで反対に体調管理を疎か（年末年始の飲み会、テレビ鑑賞による夜更かし、夜勤仕事等々）をしていた私が罹患しなかった差は何なのか? と考えてしまいました。

これから迎える 3 月、4 月は様々な花粉、PM2.5 等による体調不良を発生すると思います。皆様もマスク、うがい、食べ物（ヨーグルトが花粉症に効果的らしい）、栄養のある食生活、ストレスのない生活を送り、快調に過ごしてください。

平成 31 年は今年の 4 月末までで、5 月から新元号になり、10 連休とお祭り状態になります。今後、2020 年の東京オリンピック開催後は 2025 年の大阪万博が開かれ、ますます近畿圏の経済が活性化して活況すると思います。ですので皆様も体調管理、健康増進を図って素晴らしい未来を送りましょう。

平成 30 年 12 月に第二の人生をスタートされた鹿島建設株式会社の溝田寿様は、関西支部において、永年、企画部長、広報部会員として活動いただいております。退職後は、趣味のゴルフに一層励まれるとのこと。ますますのご健勝を心よりお祈り申し上げます。

年に 2 回発行している支部機関誌『JCMA 関西』ですが、今年度 2 回目の本誌は特集や随筆をお休みしての簡易バージョンでお届けいたします。ご容赦ください。

編集部一同

ご意見・ご感想を  
お待ちしております。



### 原稿をお寄せください

『JCMA 関西』に原稿をお寄せください。内容はなんでも結構です。

新機種・新工法の紹介、社内報の紹介、

随筆、川柳、提言、体験記、ご意見、 など…

送り先：一般社団法人 日本建設機械施工協会 関西支部

### JCMA 関西編集委員

河村 謙 輔（委員長）

阪田 成 広

溝田 寿

田口 雅 章

高橋 通 夫

太田 和 秀

田地 輝 行

大友 紀 之

松本 克 英（事務局）

桐野 尚 子（事務局）



至天王寺 交通: 地下鉄谷町線天満橋駅④番出口より徒歩3分  
京阪電車天満橋駅より徒歩5分

一般社団法人 **日本建設機械施工協会関西支部**

〒540-0012 大阪市中央区谷町 2-7-4 谷町スリースリースビル  
TEL. 06 (6941) 8845・8789  
FAX. 06 (6941) 1378  
e-mail jcmakans@muse.ocn.ne.jp  
http://www.jcmanet.or.jp/kansai/